

## 子どもの負けず嫌いは、健やかに育っている証拠

年相応に、健やかに育っている息子さんですね。小さい頃、とくに3~4歳ぐらいの子どもは習い事や遊びの中でルールがまもれない時があります。お母さまからそんなわが子のルール破りの相談を受けました。

でも、大丈夫です。「**子どもの負けず嫌いは、健やかに育っている証拠**」です。この時期、子どもは、「自分は何でもできるんだ！、自分が一番だ！」という、とてもすてきな「万能感」を持っているのです。いつでも自分が主役だし、いい意味で自己中心的なイメージのなかに生きています。だから自分が負けるイメージをすぐに受け入れられないのは、この年齢ならば当然のことなんです。

例えば、子どもがトランプなどで負けて、テーブルの上のカードをグチャグチャにしちゃったりすることがありますね。あれは、自分が一番ではない世界観が受け入れられなくて、すべてをひっくり返しているのです。「いまのはナシ！」ってね。

大人の目にはわがままに映るかもしれませんが、そんな風に自己中心的な万能感が持てるのは、自分が愛されているという安心感があるからこそなんです。

ある意味、お母さん、お父さんはこれまでの子育てが順調だったと、自信を持っていいと思います。それに、子どもがかけっこでフライングするのは、みんなより早く走りだせば自分が主役である世界観を守れることがわかっているからです。先を予測できる子どもなのです。

子どもの自己中心的な世界観は、これから子ども同士の関係性のなかでほぐれていくと思います。年少クラスまではまだまだ集団で遊べなかったのが、年中クラスになると次第に子どもだけで、鬼ごっこなどのルールのある遊びをするようになります。たとえば、「こおり鬼」では、鬼がタッチしたらこおるのが

ルールなのに、それをやぶって「ぼくはこおらない！」なんて言ったら、遊びが成立しませんよね。子どもたちは、みなそれぞれにマイルールで生きてきたから小さな衝突は絶えませんし、「それ、ずるだよ！」とか「じゃあ、もうやめる！」なんてことを何度も繰り返します。

しかし、そのうちに自分が一番の世界にいるよりも、ルールを共有してみんなと遊んだほうが断然たのしいってことを覚えていくものなのです。お母さん、お父さんどうぞご安心して下さい。